



自動車の無警笛  
白紙車・多行者も協力

買物はメートル法で  
来年一月一日から実施

門出を飾る公民館結婚  
三十人で一万八千円

「広報あきた」を  
まじよう

秋田市発展の設計書  
総合振興計画に着手

ごみ箱もあっせん  
東北初の義務制実施  
通し回し町内生活

全町がポリ容器収集  
場及て週二回ゴミ回収

「はポリ袋でも収集

多い城下町の都市形態をどうしていったらいいか、市民とともに考えています。

「満場の拍手を以て十二力村の合併を議決」(S29・7・20)は当時のビッグニュース。太平、外旭川、飯島、下新城、上新城など秋田市周辺の十二村がこの年十月に合併し、翌年一月には金足も加わり、現在の市域になりました。当時の武埴市長は「かくの如き未曾有の大合併は大秋田市百年の大計」と説明しています。

「総出で道路作業。上北手地区で十六日間」(S31・3・5)は、地域住民による道路補修作業の紹介。馬そりで運んだ大量の砂利を道路に敷き詰める作業が住民総出で行われていました。当時はまだ舗装道路なんてほとんどなかった時代です。



生活も変わって  
きたんじゃな

年々交通事故も増えました。「広小路に自動信号機」(S31・8・1)が県内で初めて設置されたのもこの頃です。まだ誰もその見方を分からなかったのでしょうか。広報で図解しながら、赤、黄、青の色の意味や信号の仕組みを懇切丁寧に

解説しています。

車の増加とともに町の騒音も気になり始めてきたようです。「自動車は無警笛」(S33・8・1)と、町を静かにする運動もありました。

メートル法が実施されたのは昭和三十四年一月から。今は当たり前前のメートルとグラムですが、それまで長さは尺、重さは匁。買物はメートル法で「(S33・7・15)では、生活の一大変化であるメートルとグラムについて詳しく解説。

「メートル法を覚える近道はいちいち『百匁は何グラム』などと換算するよりも、いきなりメートル法で買ってみることである」とアドバイス。



ごみ収集も  
いろいろあったのう

ごみ収集にも変遷があります。「ごみ箱もあっせん」(S35・6・1)では、コンクリート製のごみ箱を奨励し、二千百円で販売しました。しかしこのごみ箱の全盛期は短く、昭和四十年頃からは収集効率の良いポリ容器の普及をはかります。「全町がポリ容器収集」(S41・3・1)は、堀反町内では全部の家庭がポリ容器に切り替えたという紹介記事。ご

み箱だと一日半もかかっていた収集作業が、わずか二時間でできるようになったとPRしています。「家庭用ゴミはポリ袋でも収集」(S45・3・1)はそれから間もなく。ごみにも試行錯誤がありました。

昭和四十年を過ぎると、都市基盤整備の計画が進みます。「明田・泉・手形方面を計画的に市街地化」(S41・8・1)、「駅前」山王入口を市の中心商店街に「(S42・10・1)」「駅東側が近代都市に」(S45・7・20)。「快適な文化生活は水洗便所から」(S44・11・20)と、トイレが水洗化され始めたのもこの頃のことでした。

### 4月から 過去の広報あきたを ホームページで

この五十年。私たちの暮らしがいかに便利になってきたことが。そして私たちは高齢社会を迎えました。これから新しい時代であり続けるために、みんなで頑張っていきたいものです。

広報課では、この四月から、創刊号からの広報あきたをホームページで閲覧、検索できるようにする予定です。お楽しみに！



快適な文化生活は水洗便所から  
新年度から山王地区全実施

7月下旬から新交通規制  
広小路 中央通り 逆時計回り一方通行

広小路を買い物道路に  
二回から毎週日曜・月日

駅前側が近代都市に  
土木工事などによる環境整備

方面を計画的に市街地化  
秋田県立総合資料館

「あきた」の中心商店街に  
中央地区開発計画を定む

一方街ですむ市内異動届け  
四月一日から市街地化で

旭川 土崎にカギ子教室  
七月二十日から開始

月二回不燃物収集を  
23日から実施

市内の舗装事業に邁進  
本年度だけで約半の舗装

商工課内に何かせき相談所  
町方不明の父親まがし